

文化は自然と文明をつなぐ命綱。

あらためて問う。
人はパンのみにて
生きるものに非ず

コロナ禍では演劇やコンサート、映画の劇場公開などさまざまな文化芸術活動が休止・延期を余儀なくされていった。社会を揺るがす危機にあって、果たして「文化」は本当に不要不急なのだろうか。文化にしか果たせない役割とは――。

文

化とは何か、何の役に立つのか？」

これほど誰もが言葉自体は知っていても答えられない問いはない。しかし普段は誰も真剣に答えを探すことがないこの問いは、社会が大きな危機に直面すると必ず前面に出てくる。そしてそれは「文化に支援をすべきか?」「それは誰がすべきか?」という問いに発展していく。

「現在の状況が文化と創造にかかわる経済にとつて、とりわけ(中略)アーティストの方たちに深刻な逼迫をもたらしかねないことは理解しています」「これは、経済的な救済であるだけでなく、(中略)文化の世界を救うことでもあるのです」(二〇二〇年三月十一日 モニカ・グリユッター独文化大臣)

「困難に直面した人々に安らぎと勇気

を与え、明日への希望を与えてくれたのもまた、文化芸術活動でした。この困難なときこそ、日本が活力を取り戻すために、文化芸術が必要だと信じています」(二〇二〇年三月二十七日 宮田亮平文化庁長官)

新型コロナウイルスに関するロックダウン措置を各国がとる中、ドイツは逸早く六百億ユーロ等のアーティスト、取り分けフリーランスのアーティストへの支援を表明した。グリユッター文化大臣は、支援を政府が行うのは、文化・創造産業が経済の重要な一部を成すからだけではなく、「文化の世界」そのものに救済する十分な価値があるからだと述べた。

それから半月後に出された日本の文化庁長官のメッセージでは、文化とはひとびとに「安らぎ」「勇気」「希

近藤誠一・文

text by Seichi Kondo

こんどう せいいち
近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官。1946年神奈川県生まれ。東京大学教養学科卒業後、72年外務省入省。在米日本大使館公使、OECD(経済協力開発機構)事務次長などを経て、ユネスコ大使、駐デンマーク大使、文化庁長官を歴任。2017年一般社団法人TAKUMI・Art du Japonを設立して代表理事に就任。06年仏レジオンドヌール・シュバリエ章、16年度瑞宝重光章、17年度情報文化賞国際芸術賞。

望、「活力」を与えるものと述べた。九年前の東日本大震災の一ヵ月後の四月十二日に、当時の文化庁長官(実は筆者が、全国に広がる「自粛ムード」を早く終えて文化芸術活動を正常に戻し、日本中に元気を復活させようという目的で出したメッセージ)「当面の文化芸術活動について」でも、文化は「安らぎ」「地域の絆」「希望」「心の滋養」になるとほぼ同様の性格付けをしている。

このメッセージは、自粛ムードの下で公演や展示を中止せざるを得なかった文化関係者に対する活動再開のゴーサインとして歓迎されたが、自粛期間中の損失は政府の補償の対象とはならなかった。政府の要請による自粛ではなかったから当然ではあるが、別の形で文化芸術のもつ力と、それを支援することの意義が問われた。

それは震災直後に各地のアーティストたちが、被災者支援のためにアートに何ができるか、アートには彼らを助ける力があるかを自問し、真剣に悩んだことである。被災者の方々の避難所での生活が始まったころから恐る恐る現地入りした彼らは予想以上の歓迎と感動の涙に迎えられる、アートが辛いときこそ精神的力(心の滋養)を与えることが証明され、自信を取り戻した。国も彼らのボランティア活動を助成した。今回のコロナ危機はこれとは違う。

れ、有限の物質が循環し続けることで生命は維持されてきた。

文化芸術が持つ、「文明と自然」を結ぶ力とは。

高度な文明を築いて人口を爆発的に増やした人類も、生物である限りこの生態系の摂理から自由になることはできない。それにも拘わらず科学技術の力で自然を乱獲し、多くの種を絶滅させ、生態系に負荷をかけてきた。温暖化も感染症もそれに対するシステムの反応なのだ。生態系にはバランスの維持機能があるだけで、善悪の価値判断はない。ウイルスは生態系を乱した人類を罰するためではなく、単純にバランスを回復しようとして感染を広げているだけなのだ。

人類には複雑な生態系やウイルスをコントロールする能力はない。共存していくしかない。欲望を自制して自然収奪を最小限にし、生態系を尊重しながら賢く共存していくしかないのだ。それによって温暖化も感染症も収まる。この共存はそれほど難しいことではない。われわれは既に「新しい生活用式」としてそれを体験しようとしているのだ。経済とウイルスの共存のための日々の知恵の蓄積は、そのまま文明と自然の共存モデルになる。

現代の文明を主導している政治と経

済は、権力の保持と利益の拡大を最優先し、自然の生態系を無視しがちである。自然との一体性を得意とするのは文化芸術だ。自然に畏敬の念と深い愛情をもって美を追究し、生と死を問う。ジャンルを問わず文化芸術に共通した価値は、文明と自然をつなぎ、文明生活の中に生態系を「内部化」することができるところにある。

人類の持続的生存に重要な役割をもつ文化を蔑ろにしているはずがない。この点で今回政府が総額五百八十六億円の文化芸術への支援を決めたことは評価できる。加えて、三密回避のために自粛しているアーティストには、その間に思索を深め、構想を練り、若い人材を育て、時来たらばその成果を発揮してもらえるように、今後長引くであろう制約の中での活動を社会としてしっかりサポートしていかねばならない。

コロナ危機は、文化芸術には「文明と自然」を結ぶ重要な力があり、それによって生活様式を変え、自然と共存する「新しい日常」への道をリードする役割があることを教えてくれたのだ。

文化は、経済価値のみならずそれ自体に生活を変える価値があるから政府は支援するというドイツの文化大臣の言葉には、まさにこういう意味が隠されていたのだ。●



緊急事態宣言の発令以降、文化芸術の発信地である劇場、映画館などは軒並み臨時休館となった。写真はその中のひとつ、ミニシアター・アップリンク渋谷の劇場内。新作映画の封切りも次々と延期されていき、スクリーンは空白のまま取り残された(提供・アップリンク)